参考資料

参考資料１　これまでの主な取組

（１）市民参加による主な取組

期間	組織	提案書
平成 15 年４月から 平成 16 年３月まで	立川市新庁舎建設市民 100 人委員会	現庁舎敷地利用計画市民案
平成 17 年３月から 平成 19 年３月まで	立川駅南口周辺まちづくり協議会	現庁舎の敷地利用を中心とした南口の活性化に向けて

（２）市による主な取組

期間	主な取組	
平成 20 年度	現庁舎周辺地域グランドデザイン基礎調査	
平成 21 年度	現庁舎周辺地域グランドデザイン策定調査	
	市民アンケート	（平成 21 年７月 23 日から８月 10 日まで）
	報告会	（平成 21 年８月１日、４日）
	有識者懇談会	（平成 21 年８月５日、10 月９日、11 月５日）
	市民意見募集	（平成 21 年 12 月 22 日から平成 22 年１月 18 日まで）
	シンポジウム	（平成 22 年１月 14 日）

参考資料２　市民アンケート（概要）

現庁舎周辺地域のまちづくりに関するアンケート調査（単純集計）

１．調査目的

・平成 20 年度に実施した「現庁舎周辺地域グランドデザイン基礎調査」では、現庁舎周辺地域におけるまちづくりビジョン（導入機能（案）・まちづくりのコンセプト等）について、「現庁舎敷地利用計画市民案（平成 16 年３月、新庁舎建設市民 100 人委員会）」や「現庁舎敷地利用を中心とした南口の活性化に向けて（平成 19 年３月、立川駅南口周辺まちづくり協議会）」等の市民意向に加え、立川駅周辺のまちづくりの動向や現庁舎周辺地域の状況の変化を踏まえ検討を行った。

・本アンケート調査は、これまでの検討状況を市民と共有し、さらなる意見･要望を把握したうえで、平成 20 年度の検討内容を充実・発展させることを目的として実施したものである。

２．調査実施概要

①対象地域　：立川市全域

②対象者　　：立川市に居住する 20 歳以上の市民（H21.7 現在 143,880 人）

③標本サイズ：約 2,000 票（対象者の 1/70 抽出による 2,057 票）

④抽出方法　：住民基本台帳による無作為抽出

⑤調査方法　：調査票の郵送配布、郵送回収

⑥調査期間　：平成 21 年７月 23 日(木)
～８月 10 日(月)

３．調査項目

①「あなたと現庁舎周辺地域との関わり」について

②「現庁舎周辺地域の現状」について

③「まちづくりビジョン」について

④「まちづくりのイメージ」について

⑤「あなたご自身のこと」について

４．回収結果（H21 年８月 31 日現在）

①配布数　　　：2,057 票

②有効配布数　：2,035 票
（転居等による返送分の 22 票を除く）

③回収数　　　：　741 票

④回収率　　　：　36.4％

＜地域別の回収結果＞

	有効配布数	回収数	回収率
合計	2,035	741	36.4%
錦町	189	64	33.9%
1丁目	53	11	20.8%
2丁目	29	9	31.0%
3丁目	23	10	43.5%
4丁目	14	3	21.4%
5丁目	24	10	41.7%
6丁目	46	21	45.7%
羽衣町	117	50	42.7%
1丁目	39	13	33.3%
2丁目	54	29	53.7%
3丁目	24	8	33.3%
富士見町	230	91	39.6%
柴崎町	113	35	31.0%
曙町	128	56	43.8%
高松町	118	36	30.5%
緑町	32	6	18.8%
泉町	16	8	50.0%
栄町	148	55	37.2%
若葉町	149	56	37.6%
幸町	155	53	34.2%
柏町	100	33	33.0%
砂川町	179	61	34.1%
上砂町	115	29	25.2%
一番町	161	66	41.0%
西砂町	85	30	35.3%
不明	－	12	－

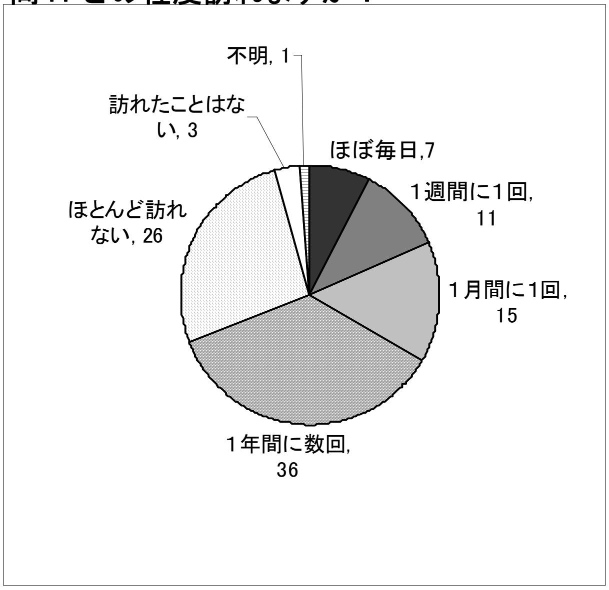
※ハッチ部は平均 36.4%以上
※グラフは、7. 集計結果(7 頁)参照

5．集計結果（単純集計）

Ⅰ．あなたと現庁舎周辺地域との関わりについて

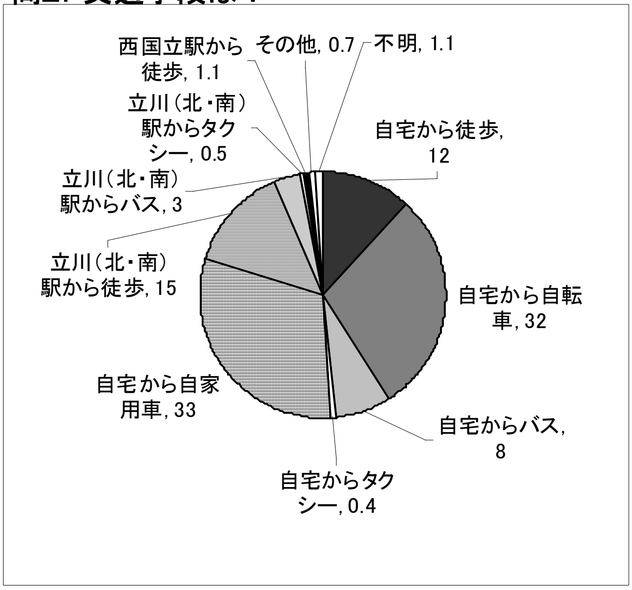
問1．どの程度訪れますか？

（単位：%）



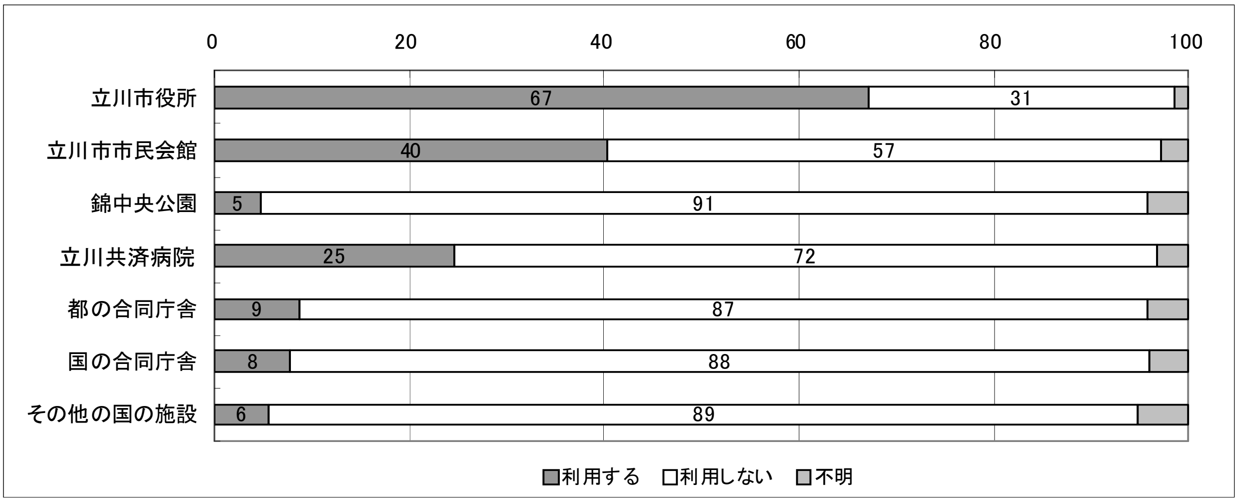
問2．交通手段は？

（単位：%）



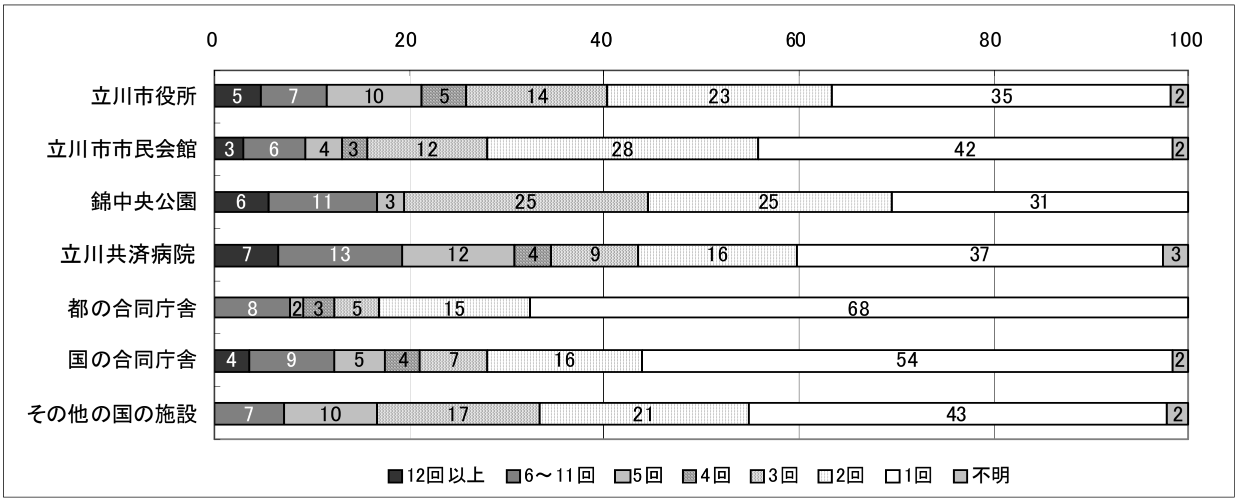
問3－1．次の施設を利用しますか？

（単位：%）



問3－2．次の施設を年間どの程度利用しますか？

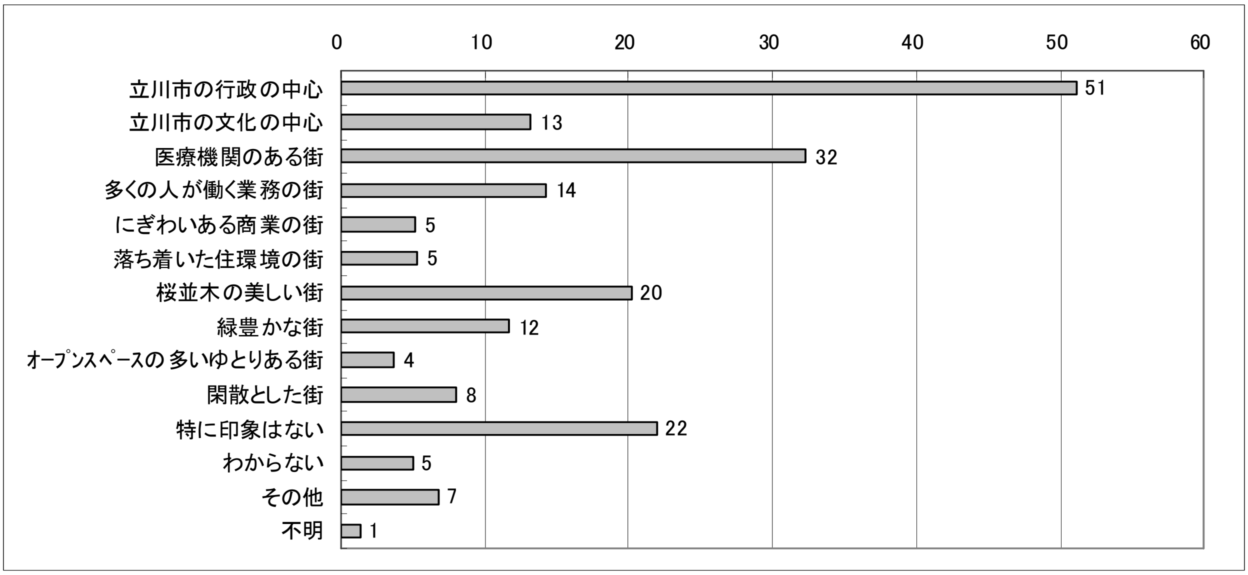
（単位：%）



Ⅱ．現庁舎周辺地域の現状について

問4．どのような印象をお持ちですか？（複数回答）

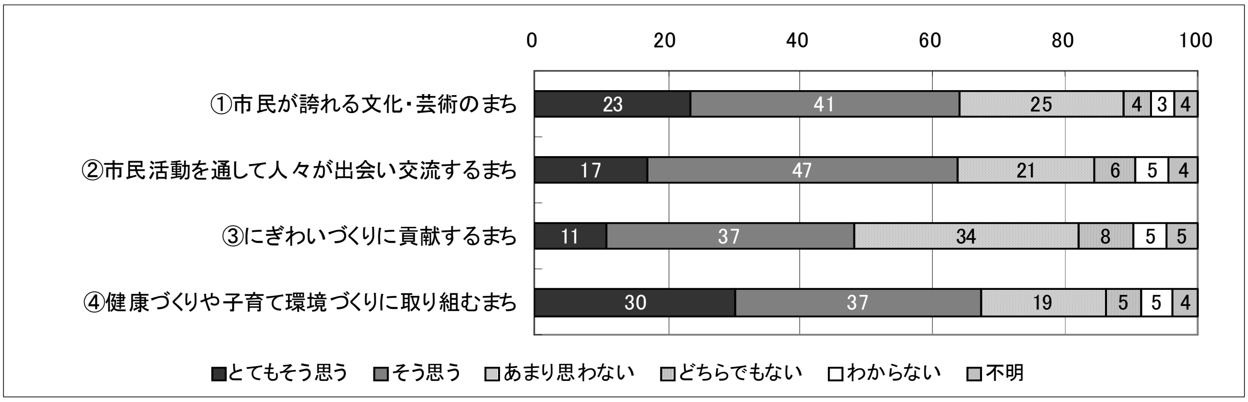
（単位：％）



Ⅲ．まちづくりのビジョンについて

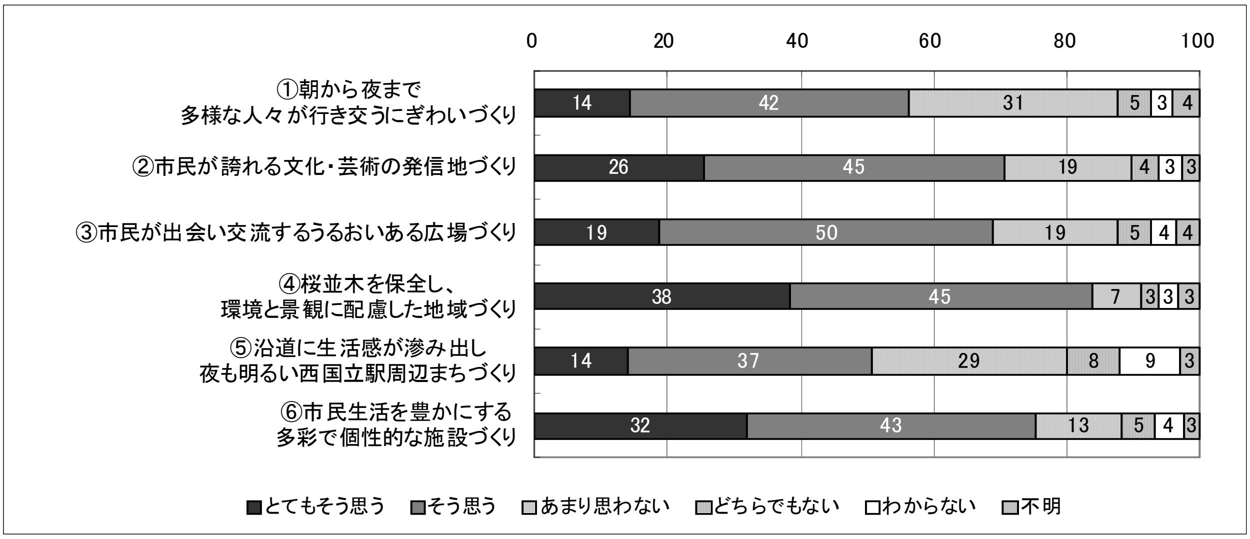
問5．次のまちづくりの位置づけをどのように思いますか？

（単位：％）



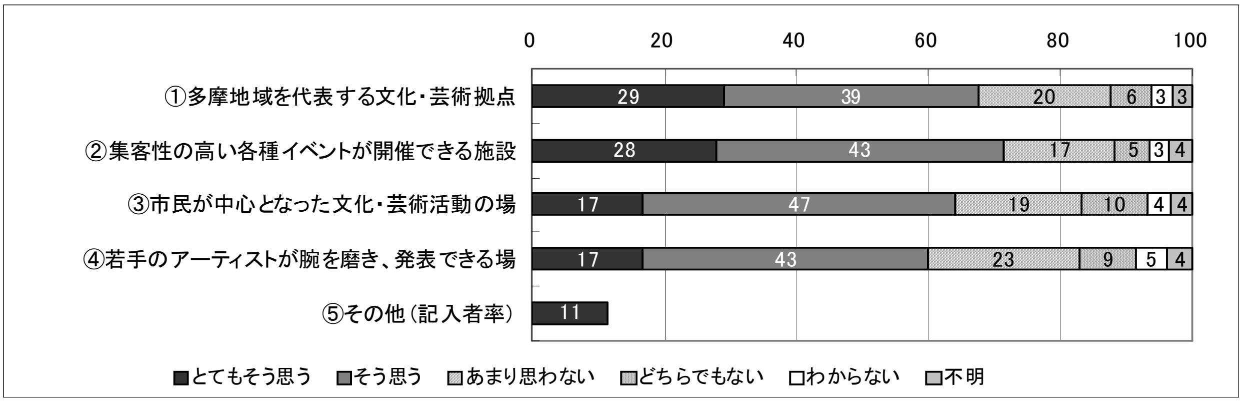
問6．次のまちづくりの方向性をどのように思いますか？

（単位：％）



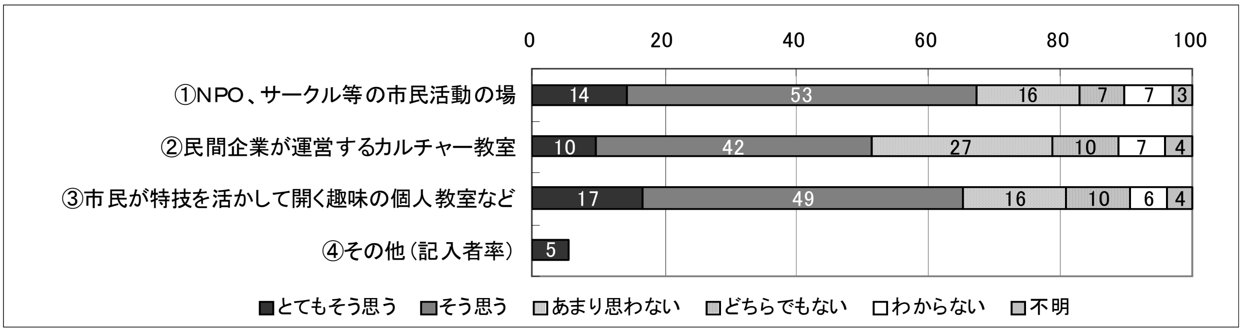
問7．（1）どのような文化・芸術機能を期待しますか？

（単位：%）



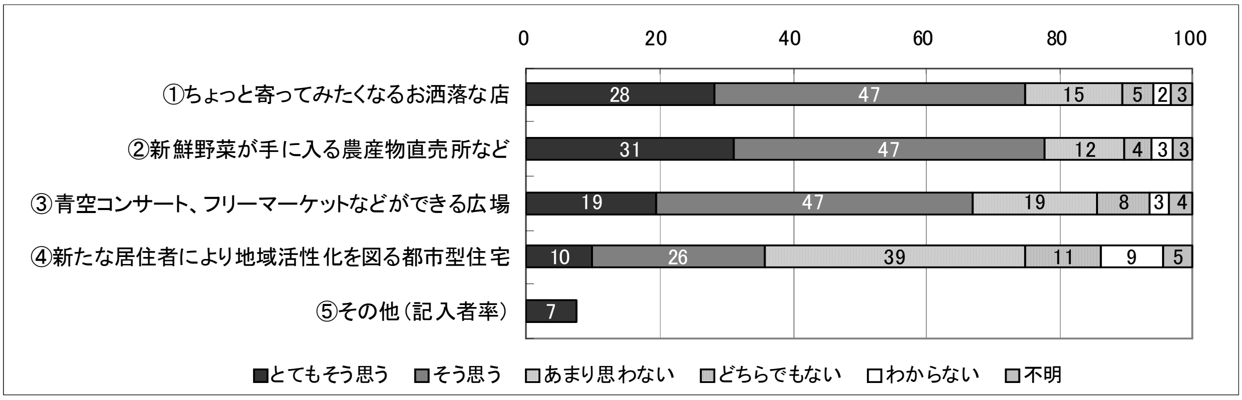
問7．（2）どのような出会い交流機能を期待しますか？

（単位：%）



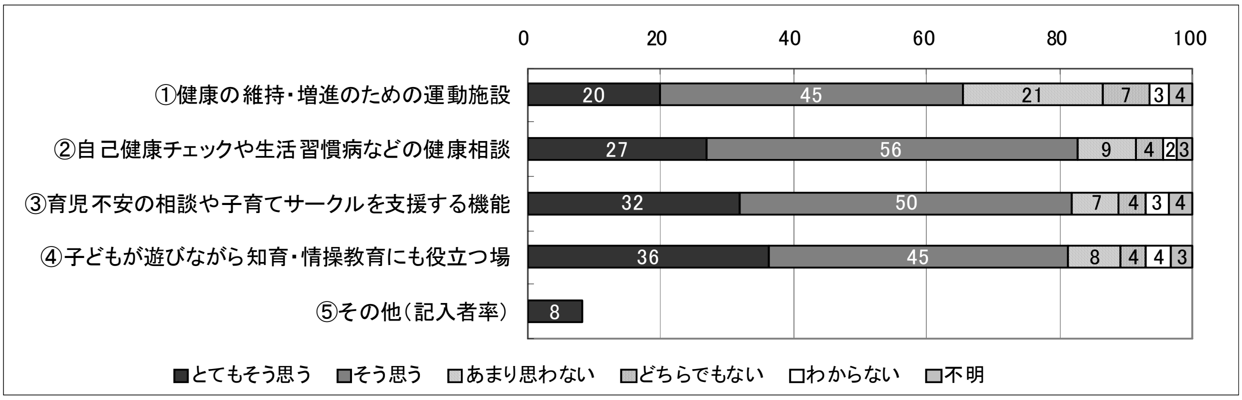
問7．（3）どのような地域活性化機能を期待しますか？

（単位：%）



問7．（4）どのような健康・子育て機能を期待しますか？

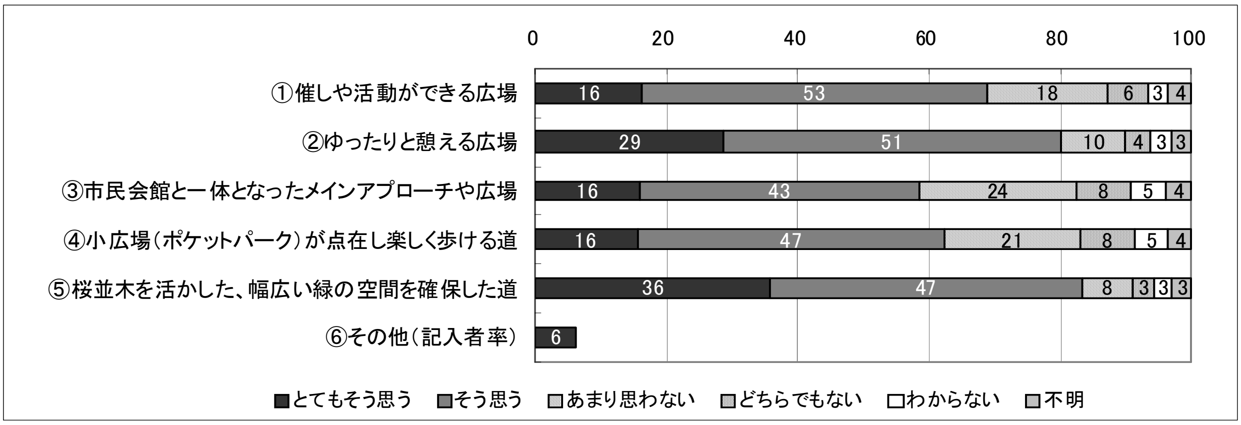
（単位：%）



Ⅳ. まちづくりのイメージについて

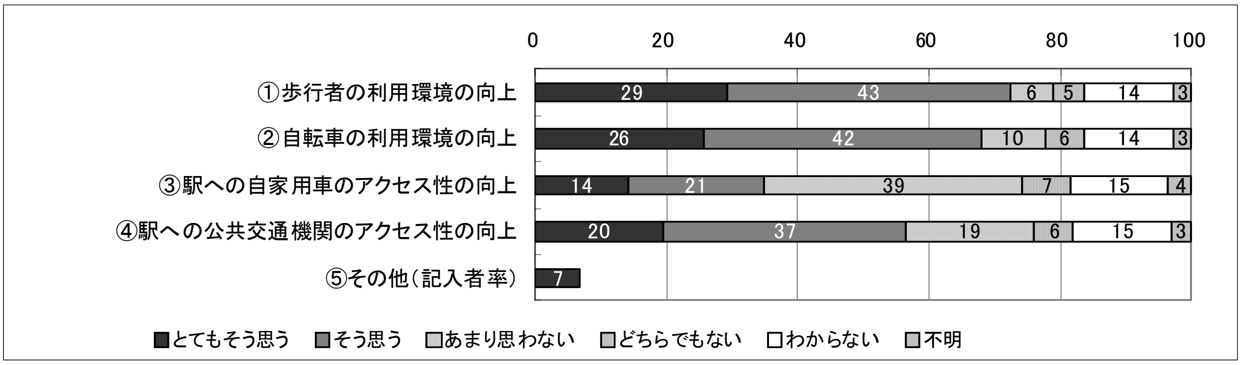
問8. どのような広場や緑などの環境を期待しますか？

(単位：%)



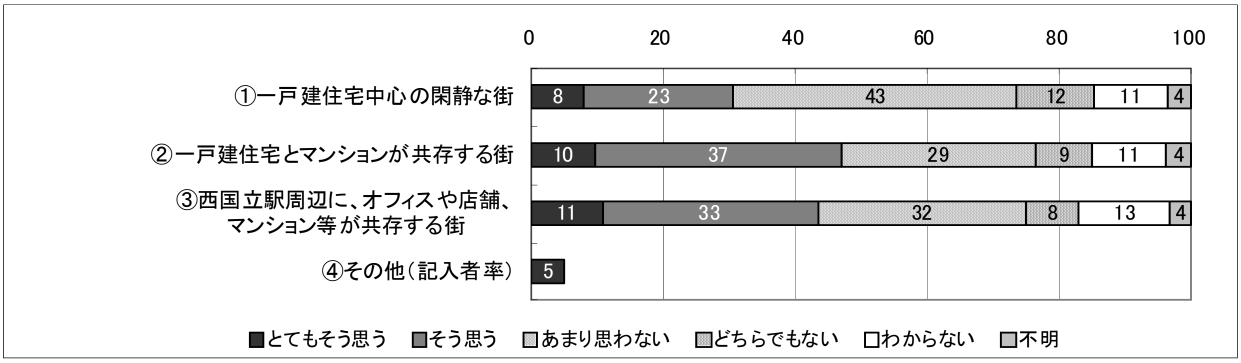
問9. どのような西国立駅周辺の交通環境を期待しますか？

(単位：%)



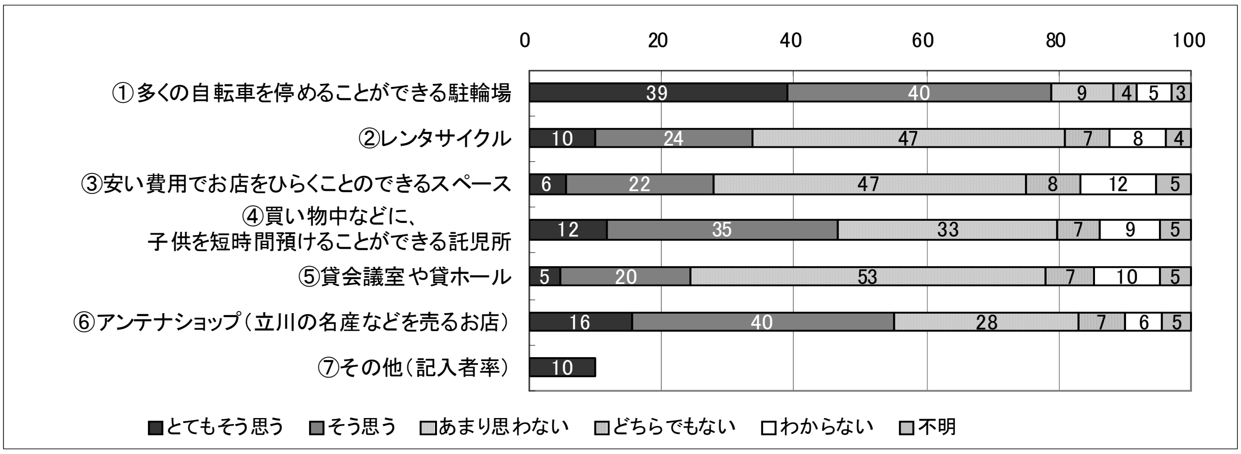
問10. 現庁舎周辺地域が将来どのような姿になることを期待しますか？

(単位：%)



問11. 58街区にどのような機能を期待しますか？

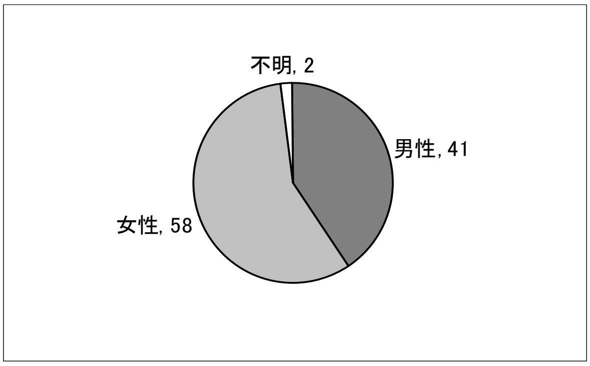
(単位：%)



Ⅴ. あなたご自身のことについて

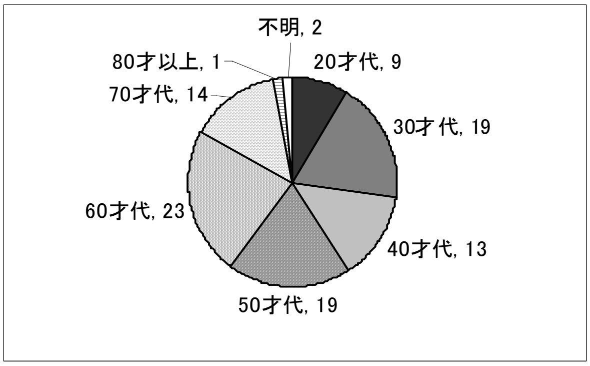
問12. あなたの性別は？

（単位：%）



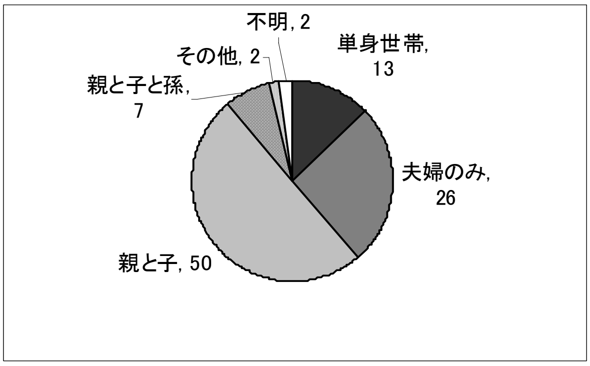
問13. あなたの年齢は？

（単位：%）



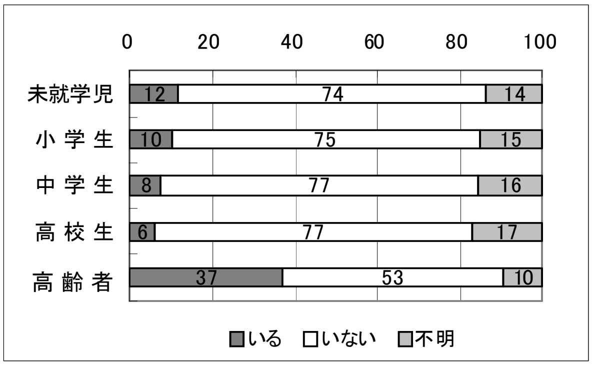
問14. あなたの世帯は？

（単位：%）



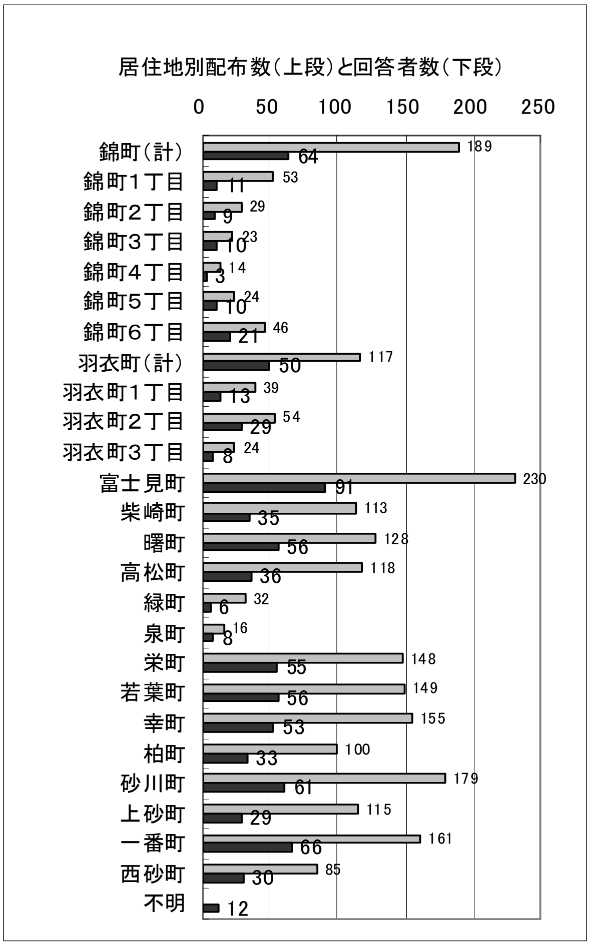
問15. あなたのご家族は？

（単位：%）

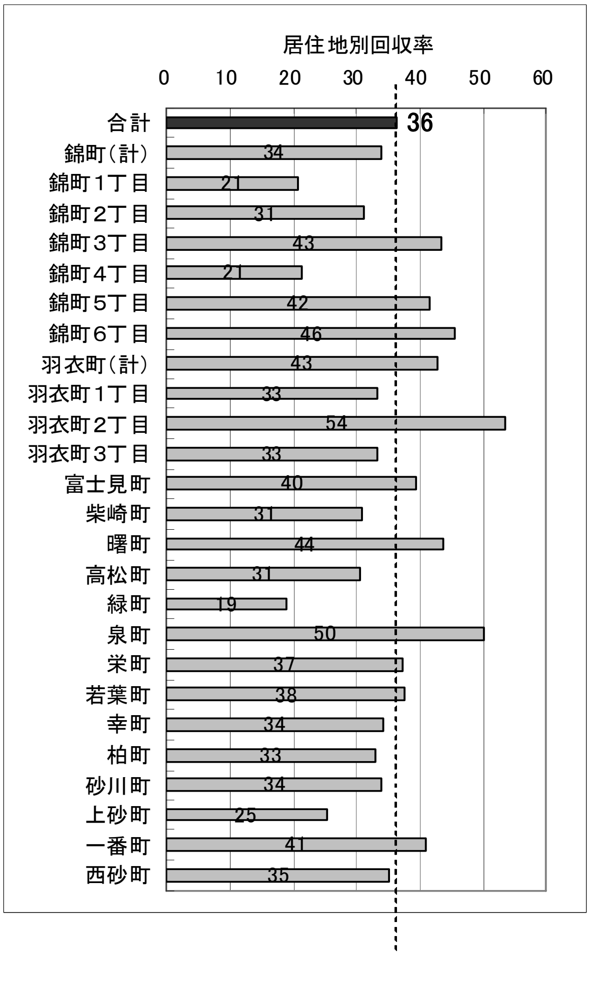


問16. あなたの住所は？

（単位：人）

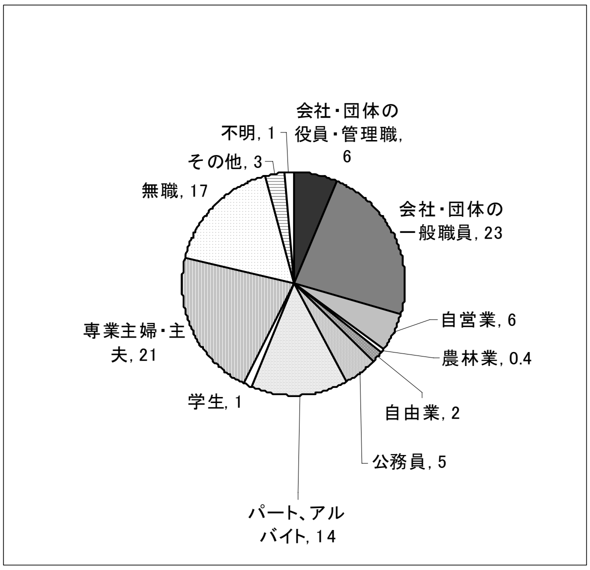


（単位：%）



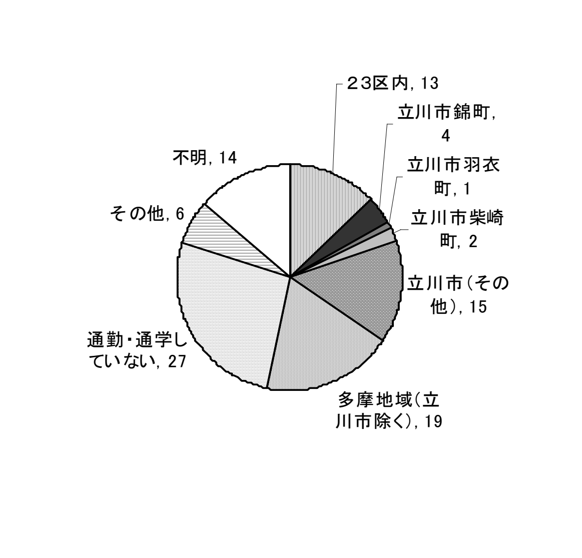
問17. あなたの仕事は？

（単位：％）



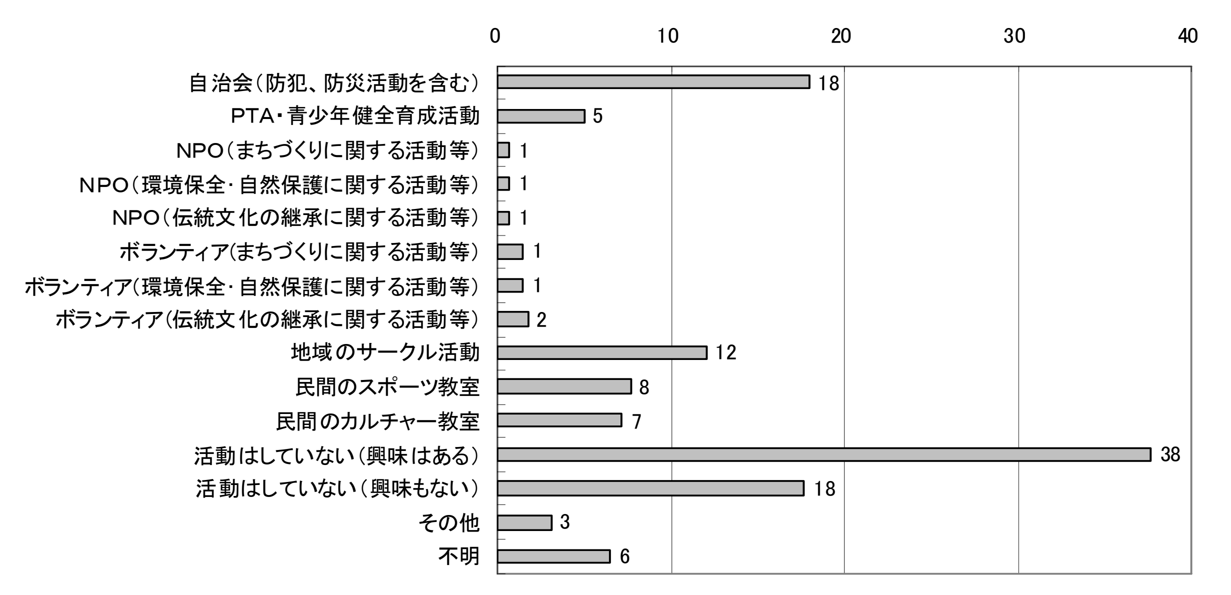
問18. あなたの通勤・通学先は？

（単位：％）



問19. あなたは次の活動に参加していますか？（複数回答）

（単位：％）



参考資料３　有識者懇談会（意見交換の要点）

■目的

平成 20 年度「現庁舎周辺地域グランドデザイン基礎調査」の検討等を踏まえ、現庁舎周辺地域にふさわしい夢のあるビジョンを描くため、各分野で活躍する学識経験者や専門家をお招きし、意見交換等を行うことを目的とする。

■進め方

１）都市計画、都市景観、地域産業施策等に係る有識者をレギュラーメンバーとして、各専門分野の視点からご意見を頂き、グランドデザイン策定へのアドバイスとしてまとめる。

２）検討領域が極めて広いため、導入機能やテーマに即して第一線でご活躍のゲストをお招きし、事例紹介やアドバイス等を頂き、レギュラーメンバーを交えて意見交換を行う。

■開催日時等

●第１回　（日　　時）平成 21 年　８月５日（水）午後４時から６時まで
（場　　所）市民会館第一会議室
（主な内容）本地区の「計画づくり全般」について意見交換
- それぞれの専門領域からの示唆、指摘
- 本地区の役割、地区の価値を高める機能とは
- 本地区の計画づくりで大切にしたいこと
- 会場出席者を交えた自由な意見交換
- 次回懇談会で深めるテーマ

●第２回　（日　　時）平成 21 年 10 月９日（金）午後２時 30 分から５時 30 分まで
（場　　所）議事堂内会議室
（主な内容）ゲスト有識者を招き、「導入機能」を中心に意見交換
- まちづくりにおける文化・芸術のハードとソフト
- 「子育て」からのまちづくり
- 現庁舎周辺地域の「導入機能」について

●第３回　（日　　時）平成 21 年 11 月５日（木）午後５時から７時まで
（場　　所）議事堂内会議室
（主な内容）グランドデザイン（中間まとめ）について意見交換
- まちづくりビジョン
- プログラムとマネジメント

■有識者

（第１～３回有識者）

氏　名	所　属
高見澤　邦郎	明治大学理工学部建築学科客員教授
佐々木　葉	早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授
関　幸子	NPO 法人地域産業おこしに燃える人の会理事長

（第２回ゲスト有識者）

氏　名	所　属
鳥山　千尋	社会福祉法人 杉樹（さんじゅ）会　前・杉並区区民生活部参事（文化施策担当）
坂本　純子	NPO 法人新座子育てネットワーク代表理事

有識者のプロフィール

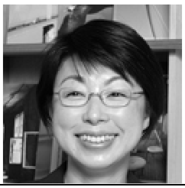
【レギュラー有識者】

①高見澤　邦郎　氏（たかみさわ　くにお）

明治大学　理工学部　建築学科　客員教授
東京都立大学（首都大学東京）　名誉教授

○専門分野　・　都市計画、市街地整備計画
○関連テーマ　・　本地域のグランドデザインのあり方
・　地区整備のプロセスデザインと実現方策

②佐々木　葉　氏（ささき　よう）



早稲田大学　創造理工学部　社会環境工学科　教授

○専門分野　・　都市景観・パブリックデザイン
○関連テーマ　・　本地域の都市景観の形成に向けて配慮すべき視点
・　芸術文化・医療等の拠点におけるパブリックデザインのあり方

③関　幸子　氏（せき　さちこ）

NPO 法人地域産業おこしに燃える人の会理事長
㈶まちみらい千代田　専門調査員

○専門分野　・　地域産業政策、エリアマネジメント
○関連テーマ　・　本地域に相応しい地域活性化のあり方
・　市民利用に応じた公共公益施設の整備の方向性

【ゲスト有識者】

④鳥山　千尋　氏（とりやま　ちひろ）

社会福祉法人　杉樹会(さんじゅ)会
前 杉並区区民生活部参事（文化施策担当）

○専門分野　・　文化・芸術分野
○関連テーマ　・　文化・芸術・イベント等の仕掛けのあり方
・　芸術文化施設の運営の方向性

⑤坂本　純子　氏(さかもと　じゅんこ)

NPO 法人新座子育てネットワーク代表理事

○専門分野　・　子育て分野
○関連テーマ　・　地域の子育て環境整備の方向性
・　子育て支援とネットワークのあり方

第１回有識者懇談会

■主な視点・論点（敬称略）

○本地区の位置づけ（果たすべき役割）について

（立川市の他地区との関係）

・ 駅北口や南口、また、南口の中でも 58 街区を含めて整理すべきである。（高見澤）

（多摩地区の中での位置づけ）

・ 多摩地域のための機能をここから発信していくという取組みが必要ではないか。（関）
・ 北口は多摩地域の広域拠点、南口は立川市のローカルな拠点という整理が考えられる。（佐々木）
・ 今までの議論では、本地区が多摩の核か（立川市の中の）地域の核かは煮詰まっていはいない。実施中のアンケートから本地域への市民の捉え方を分析する。（市）

○グランドデザインのあり方・描き方について

・ 当該地区の場所性を踏まえ、ローカルな機能と広域的な機能をどのように貼り付け、それを時間軸で管理し、建物に手を入れながら使っていくプログラムを大事にしたグランドデザインが必要である。
・ 行政、病院、民間などいろいろな人たちが関与する複雑な体系を解いていくために、解いてきた道筋や要点が明確になるようにグランドデザインを描く必要がある。（以上、高見澤）
・ まちづくりの特色を出していく場合に、市民とキーワード（共通言語）を持つことにより、市民のまちづくりへの総意（アイデンティティー）が形成しやすくなる。（関）

○本地区が持つ資源や資産の活かし方について

・ 地域で誇れる、継承すべき空間・環境資源の洗い出しが大切である。
・ 地域における今までの生活の蓄積を、連続性を持って今後に展開する。（以上、佐々木）

○本地区の都市機能・産業について

・ 本地区の広域性とは、必ずしも大きなボリュームが必要であるという意味ではなく、コンパクトな施設が広域的なメッセージを発信し、広くから集客するという意味である。（佐々木）
・ 病院機能を活かし、予防・介護・医療という一連のシステムの整備があれば産業となる。（関）
・ （新しい都市居住のあり方として）周辺に良い影響を与える次世代の建替えにつながる先行的なモデルとなる中低層集合住宅の街区ができると面白い。（佐々木）

■次回の論点（高見澤及び市）

・ 広域性とローカル性の問題の整理及びどのような場所にどのように位置づけるか。
・ 時間軸を置いた地区整備のマネジメント（誘導・管理）の体系をどのように確立するか。
・ ゲストを招いて、市民会館がある地域性を踏まえ“市民が誇れる文化・芸術のまち”の検討及び“健康・子育てとまちづくり”という視点での検討を予定。

■整理・検証すべきデータ等

・ 立川市の（客観的な）実力：将来予測人口、“多摩支店”の立川市への進出動向。
・ 本地区の実力：今後の業務立地の可能性。

第２回有識者懇談会

■主な視点・論点（敬称略）

○まちづくりにおける文化・芸術（ハードとソフト）について

- 阿佐谷は、「美しいまち・活気のあるまち」をつくるために、ジャズ好きの人々をまちづくりに取り込んで、盛り上がってきた。来年以降はテーマを議論する人ではなく、実際にやる人を見つけることが試金石になる。(高見澤)
- 街の人は、補助金がなくなり、このイベントが継続できなくなる場合の心配や区に迎合する姿勢を嫌うなどの本音もあり、自力開催の意見も多かった。(鳥山)

○「子育て」からのまちづくりについて

- 自分の居場所や楽しみを求め、集まってくる人の中から、「最初の人」をどう育ていくかが重要。最初になった人達の影には、黒子に徹し、うまくステージ乗せていく行政の人がいる。市職員がどこまでそのような行政の人になれるかが、極めて大きい。乳幼児出産後などの若い親達は、自分の暮らしの中に「根っこ」を持ちたがっている人が増えている。自分の時代にできた「根っこ」を地域の中でもつ快感は、みんな欲している。(坂本)

○現庁舎周辺地域の導入機能について

- 何を仕入れ、どういうことを選択し、何をするのか、そして、誰がつくっていくのか。そこにある程度言及しないと、今までの事からそう出ない。ステージ２では、病院の集約化など、市にとっても約束できないことでもあり、我々にとっても予測がつかない。(高見澤)
- 「この街に住んで、この街で働ける」ことをグランドデザインに限らず、市の大きな方針として掲げると良い。現在の地区内・周辺の状況に配慮しながら、暫定利用する建物や空間のつくりを工夫し、外側に滲みだすような形をステージ１についても考えていくべき。また、内側でやっている活動等に連携した空間づくりの為に、長期的には西側の隣接地への働きかけも考えていくべき。地区の印象に大きく影響すると思う。(佐々木)
- 現庁舎暫定利用計画案は、機能が収まった幕の内弁当のようで、これだと、新しいものが出てくる感じがしない。(鳥山)
- プロセスを重んじ、それを自分でやりたい、支える人達のいる様子を重要視していこうといったところだと思う。実現したいという意欲や能力、喜びを持つ人達を見つけながら、ウエイトを付け、立川が発信する形にしていかないと、結局捨てられる。(高見澤)
- 道や並木など建物周辺のゾーンを含め、夢を持った使い方を示す絵を描くことも重要。子供は遊びながら、いろいろなものを感じながら、育っていく存在と考えるならば、文化・芸術にこれだけの材料があるので、それを踏まえて子育てに展開していける。(坂本)
- 「西国立駅前ゾーン」であるが、駅は使いづらく、夕方以降病院の灯が消え「寂しい」印象が強い。駅に着くと、更に寂しい気持ちになる。その辺も含めてうまく展開できると良い。(高見澤)
- 誰が運営するのかを見据えながら、ハードを考えないと運営などソフト面でミスマッチ。「コストを抑える」のではなく、「コストを稼ぎ出す」という発想（エリアマネージメント）で設計してほしい。東西に滲みでていく医療ゾーンの方向性が、当地区の骨格。市として意思を示すモデル案をつくり、早めに病院にアプローチし、共に考えていく姿勢が必要。０～18 歳の時間軸を考える子育てと同様に、医療・福祉・予防・介護の全てを包含する非常に良いコンセプトがつくれる。(関)

■次回の論点等（高見澤）

- ステージ２までの約 15 年間をどう充実させていくかに重点を置くべきである。

第３回有識者懇談会

■主な視点・論点（敬称略）

○マネジメントについて

- 税金だけを投入して全てを賄う形から地域のお金を市民に循環させる仕組み、市民の利用や雇用を考えたコミュニティビジネス（ＣＢ）が生まれるような形を考えた方がよい。市民活動もある種の産業と捉え、有償化する視点で窓口を広げ、市民だけなく企業に関心をもってもらうことも重要。公共パブリシティとして、財源確保の視点を入れてほしい。（関）
- 子育て・子育ちに関し、自身の為に始めたことが世界的な情報交換ができるまでになるケースもある。「広がる」とはそういうこと。（高見澤）
- 不利な立地条件といっても、立川駅まで徒歩 10 分程度。駅前で窓先にパチンコ店が見えるような雑然とした場所でオフィスを構えるより、バス便立地でもなく、駅から多少離れ家賃も幾分安い為、こちらを選択する SOHO 等の類はある。（佐々木）
- ここは、子育て・文化・医療に関連したビジネスが生まれやすく、業者や利用者がここを使いながら別のビジネスをしたくなる環境がある。（関）
- 市やマネジメント会社等の発注側が、ここの魅力を認識した上で、業者選定の応募要領を作成することはとても大事。（高見澤）
- 周辺には団体や組織等の地元資源も結構あるはず。オープンにやれば、そのような人達からこちらに来てくれる。そして、これだけの種地をこのような場所に持っている自治体は他にない。さらに隣に広い敷地をもつ病院もある。（関）

○プログラムについて

- デザイン（詳細部や外部との関係性等）は重要である。設計者の選任方法や新庁舎計画に準じて、ユーザーとのワークショップによる計画決定など、この時点からグランドデザインのプログラムが開始していると思う。（佐々木）
- 見えている５年間の空間リニューアル自体をイベント化していく精神、実際に利用・運営する人とのワークショップで魅力的な空間づくりのノウハウ・提案・蓄積を再度加えた方がよい。慎重さと果敢さのバランスを図り、最初の５年間くらいの成功の是非が、その後の市民会館リニューアルやステージ２への試金石となる。連続的に見ていかないと、それぞれが良くても同じ投資で倍の効果は得られない。（高見澤）
- 例えば、一人のプロデューサーが、文化や子育ての分野についてかなり意見を言って、一緒にまとめていかないと融合もできない。また、24 時間利用についても、造作より運営面が大きく関係する。セキュリティやインターネットの思想は箱を作る時に重要。運営者が決まらないのに市民要望だけを入れていくと運営が困難。先に、マネジメント会社を決めて、設計を発注するくらいでないと中々うまくいかない。現在は、PFI や PPP など何でもできる時代になったので、是非トライしてほしい。（関）
- 社会貢献心の強い設計者を選ぶなど、改修といったハードの面でも言えること。また、応募要領作成時など民間支援の仰ぎ方を支援してもらう専門家も必要かもしれない。自らも変化し開いた結果が庁内の蓄積にもなる。（高見澤）

○ステージ１について

- 第二庁舎を多様に使える可能性や一部諸室の利用など市民会館との連携をとって、このエリア全体を市民会館として一体的に考えた方が良い。（高見澤）
- 観光バス駐車場・立体駐車場の計画により、第二庁舎・市民会館のリニューアルが、それぞれ別の計画とする考え方が強くなってしまう。例えば、市民会館のエントランスを考慮し、カフェやレストラン・店舗等を内包したパビリオン的空間が挿入できると、第二庁舎、市民会館及び活動スペース等が有機的に繋がり、中庭を囲んだ一体的な使い方ができる
- 情報発信やイベントを通して、コンペをやれば相当のアイデアが出てくる。（以上、佐々木）

参考資料４　市民意見募集

■現庁舎周辺地域グランドデザイン中間まとめの閲覧方法

○広報（平成 21 年 12 月 25 日号）で概要をお知らせするとともに、ホームページ及び以下の施設で全文を公開

○閲覧場所

まちづくり調整課・資料室(市役所第１庁舎３階)、窓口サービスセンター、砂川支所、東部・西部・富士見連絡所、各地域学習館、各市立図書館、市民会館

■意見の提出方法

○住所・氏名を明記のうえ、「郵送または直接持参・ファックス・メール（ホームページ)」により提出

■意見の募集期間

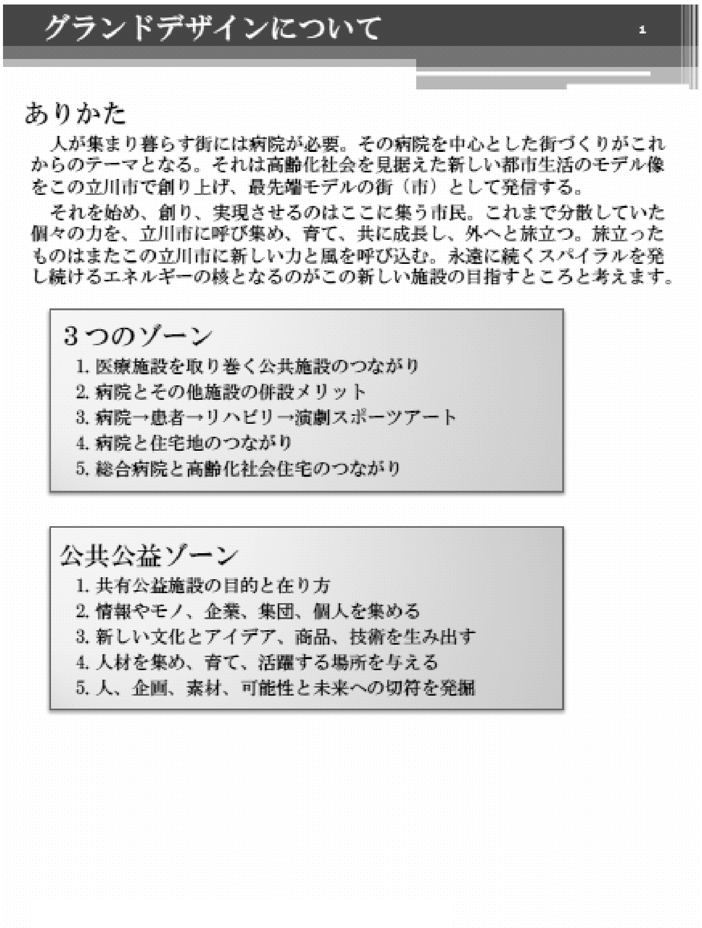
平成 21 年 12 月 22 日（火）から 22 年１月 18 日(月曜日)までの 28 日間

■意見募集の結果

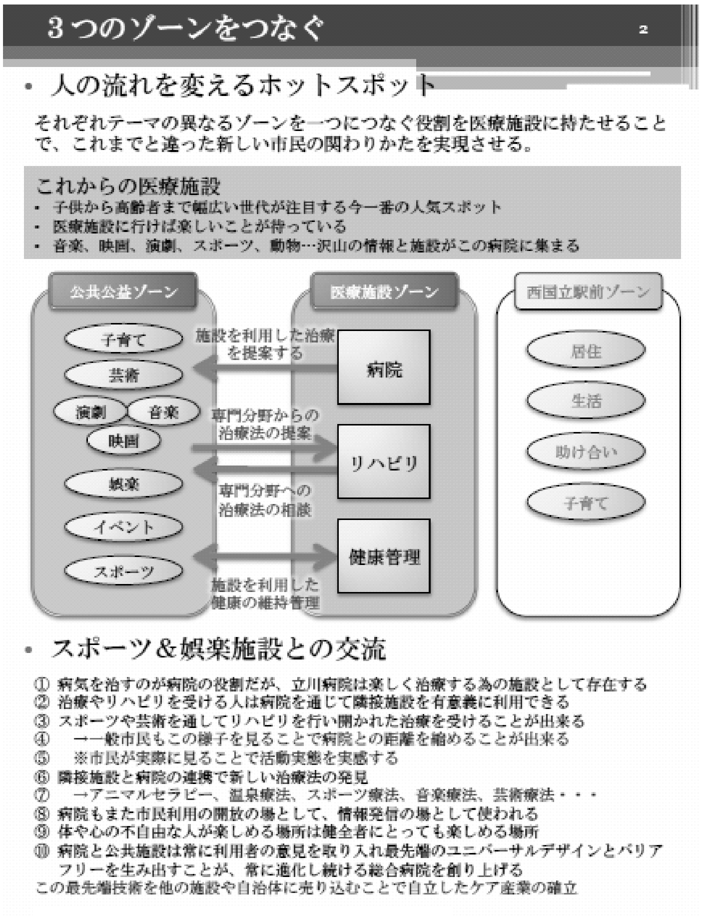
提　出　数	７件（郵送持参５件、ＦＡＸ１件、メール１件）
居　住　別	富士見町２件、柴崎町１件、錦町２件、若葉町１件、東大和市１件
主な意見 （提出者別）	①グランド球場 ②美術館 ③江戸街道（施設）での連帯、優秀な芸術家の育成、公園法で縛られない公園的空間整備 ④高齢化社会を見据えた新しい都市生活の創造・発信 ⑤全体敷地を総合施設公園へ ⑥高齢化社会の到来に対する配慮 ⑦歩行空間整備（錦消防署前）、アドバルーン等の広告塔、積立金

	意見内容	市の見解
①	前略、12 月 25 日の広報で初めて知ったのですが、現市庁舎跡地計画ですが、もう箱物は止めて、プロ野球を主としたグランド（球場）を作りませんか。具体的にいうと現ヤクルトスワローズを多摩地区に誘致してくる案です。あまり関連はありませんが、国立には研究所もあり多少の縁はあります。多摩地区の中心都市としてシンボルと地域の誇り活性化になると思います。アメリカではどの都市も市民の心意気として激しいプロスポーツの争奪戦ですよ。特に、プロ野球はですよ。 ヤクルトスワローズも都内には巨人が居り、又、神宮球場は古くプロが使うにはあまりにもサイズが小さく、それに観客は信濃町駅や千駄ヶ谷駅から遠く決して便は良くありません。しかも、ネット裏から距離が遠いなんて愚の骨頂です。ヤクルト球団も最初は都心から離れるには難を示すかも知れませんが、多摩の人口規模、これからの発展性を粘り強く語れば、案外納得してくれそうな気がします。球場を作るのは敷地が狭いなどと考えず、多少は動かすものは動かしてみるのも工夫です。立川市は立派な北口広場を作ったのです。	まちづくりの基本方針として、市役所や市民会館、立川共済病院などが立地してきた経緯・歴史性等を踏まえ、４つの導入機能（文化・芸術、出会い交流、地域活性化、健康・子育て）とともに、イベント可能な広場空間を設定しています。 近隣に病院や学校、戸建住宅が立地する周辺環境や敷地規模等から、球場等の大規模なグランドの設定は難しいものと考えます。
②	立川に暮らして 25 年ですが、普段からずっと寂しく思っていることを書かせていただきます。 八王子まで行けば、私営も入れて３つもある美術館が立川には１つも無いことです。市民が描いた絵でいいのです。現市役所の跡など空いた施設などに南口に１つ、北口に１つ、いかがでしょうか。 絵を観てホッとしたいと思っても、駅前に画廊があるだけ。買わない身には入りにくく、八王子・上野と出掛けなくてはなりません。よろしくご検討ください。	現在、市営で美術館を建設する計画はありません。現庁舎に隣接して市民会館が位置するとともに、市民の文化・芸術活動や若手芸術家の支援が課題となっていることから、市民会館と連携した文化・芸術の取り組みを展開していきます。
③	継続まち作りの拠点としての跡地活用 「意見を求める前提条件の整備」 市民と学識経験者の謝礼金を平均化して、市民意見と専門家意見を同等にする。街によっては、市民参加と、学識経験者、専門家（出席のみ）で差がありすぎる。そのため、市民の熱意だけに期待して、結果として、市民から見えにくい市政になっている事が多い。 まずは、パブリックコメント以前の問題であるが、この点をきちっとしないと良質な市民からの意見を集めることは難しいと考える。 実例としては、練馬区では、学識経験者（委員長も）、市民代表とも同額。 跡地に付いてのコメントは３点 その１　既存施設との連携の提案 ●江戸街道沿いの施設群との連帯 旧都立短期大学は、大半が昭島市であるが、施設は都の施設であり、この種の施設との連携は、行政的には重要であると考える。さらに昭島市内には、東京都の体育施設などもありこれが江戸街道沿いにあることも忠告すべき視点だと思う。 旧都立短期大学の施設は、先端企業のインキュベーター的施設と聞いているが、これらとの連携できる施設連携の検討はしたのか気になる。	行政委員会やその他付属機関等の委員の報酬は、立川市非常勤職員給与等支給条例で規定しています。ただし、要綱等で設置している市民会議・協議会等では、報償費に差がある場合がありますので、今後、報酬・報償費のあり方について検討していきます。 イベント可能な広場空間を含めた施設の総合的で柔軟な運用により、地域との連携が広がることを期待するとともに目指しています。 市内にはご指摘の施設群や多くのイベントがあり、今後、具体化するステージ１の施設内容を考慮した上で、様々な連携を展開していきたいと考えています。 第二庁舎や広場空間など、総合的で柔軟な施設の整備・運用が重要となり、そのため、現庁舎施設の設計・整備・管理運営のあり方には、専門家の知識や技術等を活用するととも

	●また江戸街道は、通称「ラーメン街道」と言われ、この種の店舗が多い。これを積極的に応援する、施設検討は、イベント検討はできないか。 その２　「海外の芸術家が集う街」の提案 ●「ＡＲＴの街」として行政的に謳おうとしているが、実際に見えるのは、旧公団が開発したファーレ地区のみである。（他にもあるが計画性を感じない） 　だからといって、この７ha の土地に、あらたな、アートを購入してその集積を行うほど、行政にお金があるようには思えない。だとすれば優秀な芸術家を育てるべきであると考える。 １：旧市役所の建物、整備をそのままいかした、芸術家村を作る。 これはプロセス・方法が非常に大切。すべてをリノベーションで！ 審査、登録制度、買い上げ制度、コンペ制度、スポンサー市民制度、等のアイデアが考えられる。いずれにしろ行政は、育てるための「種代」seasfound と新たな機材投資をしないで、サポートする。 ２：彼らが自由に売れる、マーケットの整備 立川は基地の街であったために、昔からアメリカ人が、多く見受けられた。新しい意味で、海外の人間が、街に散見できるようになれば、別の意味でもファッションなどの発信地として、中央線沿線にない街になる可能性がでてくる。 その３　「公園でない公園を！」 　公園法で縛られない公園的空間を行政催し広場と位置づける。 　ボランティア団体の自由裁量の管理体系を作る。広告収入などで整備、管理する方法を併用する。 　海外では、多くのケースでこのような公園の利用が認められる。（公園法そのものが違う事に由来するが） 例えば、ＮＹの市立図書館前の公園では、ＮＹファッションショーの巨大テントが生まれ、世界中のメディアの注目を集めている。	に、市民団体等との協働による展開を検討することにしています。 　現庁舎に隣接して市民会館が位置するとともに、市民の文化・芸術活動や若手芸術家の支援が課題となっていることから、市民会館と連携した文化・芸術の取り組みを展開していきたいと考えています。 ステージ１の期間（概ね５～15 年間のまちづくり）に、第一庁舎と議会棟を解体し整備する広場は、様々なイベント可能な広場空間として、展開していきたいと考えています。

<table>
<tr>
<td rowspan="2">④</td>
<td>


</td>
<td rowspan="2">立川共済病院の建替に向けた意見交換を行っており、市としても、病院との連携の必要性を認識しています。
ご指摘の視点に配慮し、引き続き、立川共済病院と協議・調整を進めていきます。

また、地域全体として３つのゾーンをつなぎ、新たな交流を生み出すまちづくりを展開していきたいと考えています。
特に、第二庁舎や広場空間など、総合的で柔軟な施設の整備・運用が重要となり、そのため、現庁舎施設の設計・整備・管理運営のあり方には、専門家の知識や技術等を活用するとともに、市民団体等との協働による展開を検討することにしています。</td>
</tr>
<tr>
<td>


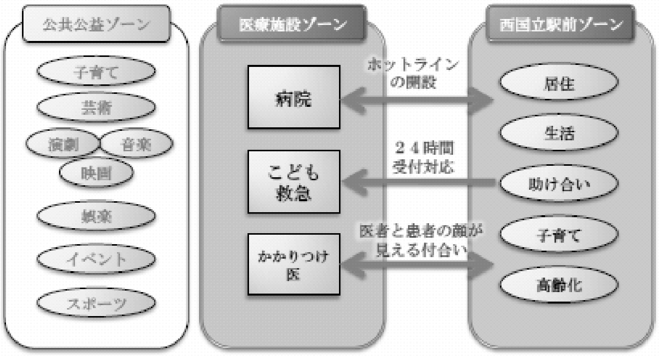
</td>
</tr>
</table>

3つのゾーンをつなぐ　3

• 近未来の生活支援

子育てや高齢化社会を支援するのは医療施設の役割でもあると考えると、これからの都市住居を想定したモデルゾーンを形成する。

医療施設と住居
- ホットラインでつながれた医療施設と生活環境
- 町医者の要素を持つ、かかりつけ医の役割を果たす通信インフラを設置
- これからの医療施設と市民の付き合い方をこのモデルゾーンを通じて創り上げられる



• 医療施設が生活を支援

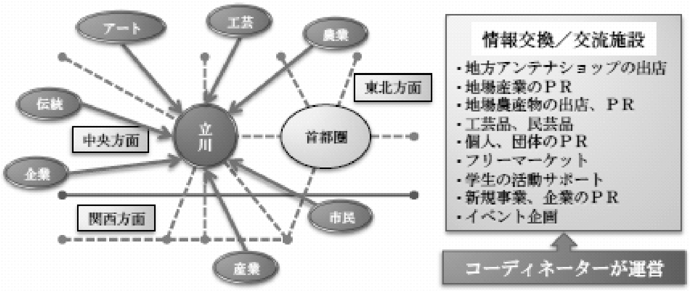
① 医療施設と生活環境が密接につながったモデル像を目指す
② 病院と住居をホットラインでつなぎ緊急時の対策を持つ
③ 　→ここに住む市民は試験的にこのシステムを利用してより良いつながりを模索する
④ 患者は直接病院へ行かなくてもホットラインで診察、処方箋を受けることが出来る
⑤ 　→往診や訪問診察の実施で遠方の市民も初診を受けることが可能となる
⑥ 子育てを最大限サポートできる医療施設は２４時間対応可能
⑦ 　→ホットラインで逸早く症状を確認し適切な対応を指示する
⑧ 住民の家族構成や持病などを事前に把握し、医者と市民の付合いが変わる
⑨ 住民と市民からの意見を取り入れ、ホットラインを含む医療のインフラ基盤を創る
この最先端技術を他の施設や自治体に売り込むことで自立したケア産業の確立

新たな交流を生み出すまちづくり　4

• 集い、ふれあう場

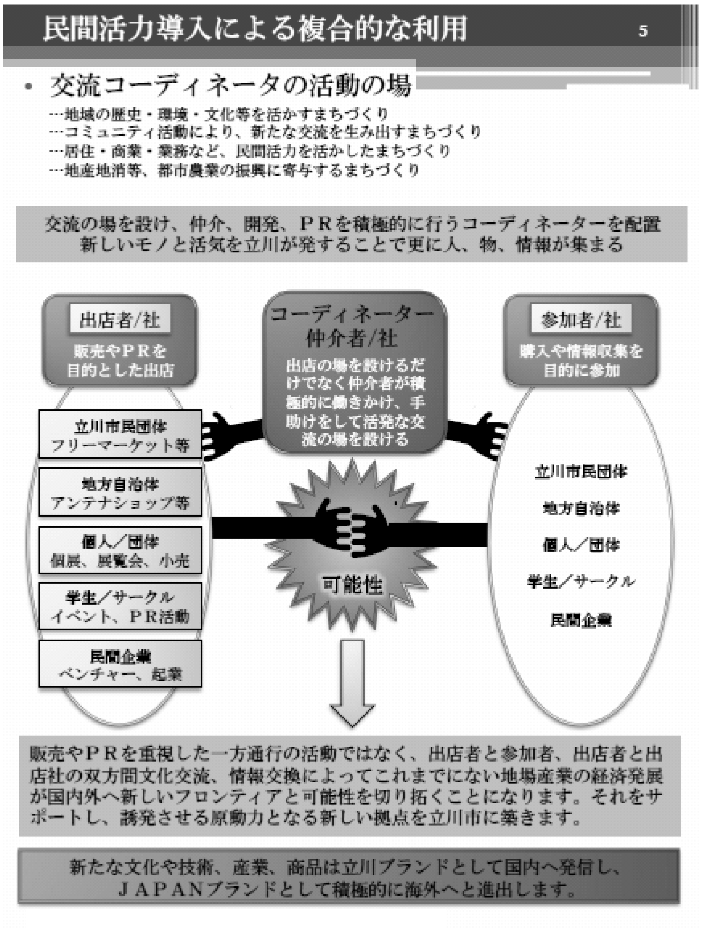
　嘗て交通の発展によって各地の文化や技術、情報、産業が集まり、新しい複合的な発展を飛躍的に成し遂げたローマやシルクロードのように、立川市にもその立地条件に合った交通網があります。
　それを活かすには限定されたエリアから参加者を募らず、県外からも可能性の秘めた方々を招致し、地場産業や学生、ベンチャー起業家との交流は、新しい立川市で交わる人流、物流、情報往来、市場経済から生まれる経済発展をもたらし、新しいフロンティアと可能性を切り拓く起爆剤となります。

分散している力を立川市に集め、常に新しい情報を発信し続け、誰もが気軽に交流の持てる「情報交換施設」を設置する。



• コーディネータとは

・市や商工会で啓発している活動をサポート
・民間、ＮＰＯ法人だからこそ出来る役割を担う
・全国各地から企業、個人、団体、自治体を呼び込む
・利害関係の一致する企業、個人、団体、自治体を結びつける
・立川の新しい産業や観光、商品開発をサポートする
・学生や個人、団体等のアイデアを積極的に取り入れ地域や企業との連携を取る
・人材を集め、企業や活動団体との経験で育成し外の世界へ輩出する
・輩出された人材や能力は、また新たな人材や素材を立川市にもたらす

<table>
<tr><td></td><td>
</td><td></td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>現庁舎周辺地域グランドデザイン御提案書
１まちづくりの理念と将来像
「感謝と夢と希望と躍動あふれる立川」
「融和世界を目指す基点、発信地となる立川」
その理由１
（イ）将来横田基地が半官半民となる予定。（未定）
（ロ）羽田とならび日本の玄関口となる。
（ハ）他市、各国と友好市、友好国を結ぶ。
（ニ）三多摩地区の中心地。
（ホ）現況は約 74 ヶ国の外人が来市している。
（ヘ）平成 17 年３月３日（木）朝日新聞、社説アジアの留学生の欄で「受け入れて日本を輝かす」と。ペリー元米国、国防長官が「外国の学生を留学に引きつけるのは、経済で特になり、外交で特になり、教育で特になる」とおっしゃられていました。留学制度の充実している国はあらゆる分野で光り輝いています。そして途上国への学校建設。
２全体の敷地面積が未定なので全体敷地を総合施設公園として、５等分から７等分して夫々の公園の中にイベントが出来るように夫々の施設を建設していく。立川市役所様と[redacted]が業務委託契約書を締結した後、各建設会社に細部を説明して、夫々プレゼンテーションを依頼する。また、コンペをさせて頂き、各有識者、立川市役所、立川市民で決定する。
★総合施設公園その１
「記憶の景公園と広場」と施設</td><td>まちづくりの理念と将来像は、まちづくりの基本条件などを踏まえ、「充実感と元気をもらえる生活・文化拠点をつくる」等と設定しています。

第二庁舎や広場空間など、総合的で柔軟な施設の整備・運用が重要となり、そのため、現庁舎施設の設計・整備・管理運営のあり方には、専門家の知識や技術等を活用するとともに、市民団体等との協働による展開を検討することにしています。
ステージ１の期間（概ね５～15 年間のまちづくり）に、第一庁舎と議会棟を解体し整備する広場は、様々なイベント可能な広場空間として、展開していきたいと考えています。
また、既存公園や桜並木などの既存樹木の保全・活用とともに、広場の整備、周辺道路の沿道緑化等について検討し、地区全体として環境と景観に配慮したまちづくりを展開していきたいと考えています。</td></tr>
</table>

地域産業育成のための「おらが市のスーパー」建設、各農産物、漁類、海産物、地元産物などの直売コーナー、生活用品、衣料、電気製品など地元で調達できないものはテナント募集

★総合施設公園その２

「華やぎの景公園と広場」と施設

（イ）立川市企業団体で農業生産法人を設立し、農林水産研究開発レポートに基づき、水耕栽培施設を建設する。将来は水耕栽培公園なども。

（ロ）三多摩地区の休耕地を利用し、農産物、果樹、花、植物などすべて水耕栽培とし、全国展開し将来は輸出農業を目指す。（太陽光発電など利用）

（ハ）販売は[redacted]が責任を持ちインターネット販売やテレビ通販など生産地から直送販売する。

（ニ）商品はブランド化を計り、販売する。

★総合施設公園その３

「桜の景公園と広場」と施設

（イ）最先端科学技術研究センター建設

（ロ）各大学の研究室を中心に研究して頂きブランド化し、立川市内と三多摩市内で、加工生産し販売する。

（ハ）留学生も学べるようにする。

（ニ）将来途上国へ技術指導し、加工生産工場建設に協力していく。

★総合施設公園その４

「迎賓の景公園の広場」と施設

（イ）女性の人達が安心して働けるように、高齢者、託児所、保育園、幼稚園、医療センターなど建設。

★総合施設公園その５

「鎮守の森公園と広場」と施設

（イ）総合教育スポーツセンター建設。

（ロ）基礎体力充実の器具、幼児親子体操、リズム体操教室、温水プール、音感教室、自習室など。

★総合施設公園その６（昭和国立記念公園の近くの土地でも良い）

（イ）スーパー銭湯付同時通訳完備の国際ホテルを建設、あらゆる国際会議の誘致営業活動をする。足湯広場など。

（ロ）各イベント、各国の歴史、文化、芸術ホールを建設、市民ホールとする。

★総合施設公園その７

（イ）立川市企業団体を設立して「ウインズ・ボートピア・サテライト・オートレース」の総合施設場外発売券売場を建設する。（立川競輪場内に施設建設する方法もある）

（ロ）地方財政への貢献の目的で。

３各事業の税引き後の純利益の社会還元

以上７つの事業の税引き後の純利益から「地震対策家具転倒防止器具の無料配布、立川市全家から全国全家へ」

（イ）器具の一部に宣伝広告を入れる。

（ロ）立川市内で製造する。

４留学制度の充実から途上国への学校建設

（イ）各国大使館を通じ毎年２名～３名の留学生を募集して立川市内でホームスティをして頂いて、学業と技術を学んで頂く。

５以上の企画営業マネージメントを立川市と[redacted]が業

	務委託契約書を締結し責任持ってダイレクト営業させて頂きます。 ①各国大使館、②各省庁、③各財団法人、④各全国大小商社、⑤各全国大小会社、⑥各全国大学、短大、専門学校、⑦各全国商工会、⑧各全国自治会など ６この事業計画御提案書はレギュラー有識者様に賛同して頂けると思いますので、是非、市役所様、立川市民様も賛同して頂けたら有難いです。	
⑥	現庁舎周辺の公的な土地の再開発を巡っては、様々な立場の市民や意見を徴され、グランドデザインとして纏められたご苦労に敬意を表します。 この再開発事業が立川駅南口の活性化のみならず、立川市全体の将来の発展に貢献し得るものであることを願って、グランドデザインに対する要望を１点だけ申し上げたいと存します。 <意見>超高齢化社会の到来に対する配慮が必要である まちの将来像（４つの位置づけ）や「楽しい」まち、「心地よい」まち創りの視点は理解できる。立川市に不足するものを補っていく方向性は正しいと思う。但し、「市民が永く安心して住める」まち創りを云う視点が弱いように感じられる。グランドデザインは将来に向けての立川市の課題を網羅的に明らかにすることが、まず必要である。 立川市民の高齢化は着実に進む。現状に於いてすら、要介護老人に対する大幅な施設不足が見られるのに、高齢化が進む将来はどうなるのか。このような状態で、現役世代の市民は将来に不安を抱かないで立川市を「永住の地」と定めることが出来るのか、疑問を感じざるを得ない。 中間まとめに於ける立川市の人口構造に対する市の考え方は「市の人口は増加基調にあり、高齢化率は東京都平均に比べて低くなっている」と云う一言で片付けられている。今後は地方よりも都市部の高齢化のスピードが速い（資料１参照）。東京都自体の高齢化が速いピッチで進む中で、立川市の方が東京都に比べ高齢化率が低いという一言で、高齢化の問題を無視して仕舞うのは如何なものかと思う。 資料Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、に日本と立川市の５歳年齢別人口推移（国勢調査、及び国立社会保障・人口問題研究所推計）を示した。特に注目すべきは、2005 年と 2035 年を対比すれば、後期高齢者については日本全体が 1.9 倍であるのに対し、立川市は 2.5 倍に増加、更に長寿年齢層については日本全体が 3.5 倍であるのに対し立川市は実に 4.4 倍に達する見込みである。 超高齢者社会の到来は現実的で切実な問題である。立川市の将来を見据えて今から真剣に取り組んでいく覚悟が必要と思われる。 市民は夫々の個人的な立場に立脚した意見や要望に偏する。それはやむを得ないし、かく云う私も現在の年齢が前期高齢者であるが故の立場から意見を申し上げている。これらの様々な立場からの意見を最大多数の最大幸福に纏め上げる役割を担うのが公であり官であると思う。大変難しい仕事であるが是非確りしたものを作って頂きたい。 なお、蛇足ながら、立川市に関する第三者的な評価としては、日本経済新聞社の調査に基づく（日経グローカル誌掲載）全国のサステナブルシティー調査（2007 年 12 月）、及び全国市区の行政サービス調査（2008 年 12 月）があり、これらの	現在、策定中の人口推計（第三次基本計画）によれば、平成 30 年頃をピークに減少局面に入り少子高齢化が進行します。 このような状況も踏まえ、本地域では、病院施設を含めた施設更新に合わせ、高齢者や子どもにもやさしい、誰もが安全・安心に利用しやすい道路環境整備を重点的に進めることとしています。 なお、ご指摘を受け、本文３ページ７行目の人口動向について「市人口は 177,268 人（平成 21 年）で増加基調にあるが、平成 30 年頃をピークに減少し、高齢化率（平成 21 年 19.3%）の増加が見込まれます。」と修正いたします。

	データを虚心坦懐に分析されることも必要と思う。既にご承知のことと思うが、念の為、付言しておきたい。	
⑦	１話しながらゆっくり歩ける歩道 　モノレール下から立川南通りに並行して消防署・三小裏・みのわ通りまで（約 1100ｍ）。一方通行の歩道を約 60cm 拡幅し（180～190cm）、車道幅は約 260cm にし、速度 30km/時に ２「近いね、遠くない」と立川駅前デッキから見えるようアドバルーン広告塔等を現第二庁舎屋上か近隣建物の協力で設置。跡地利用の街づくり、健康と文化の再スタート、市民の広場等を広報する。 ３長期計画実施の担保性として、1,000 万円/年以上の積立を開始する。 ４西国立駅周辺の街づくりとして、南武線の立体化、中央線立体交差等を含めて別途提案したい。	錦消防署前の道路は、平成 19 年３月の「現庁舎施設を中心とする南口の活性化に向けて（立川駅南口周辺まちづくり協議会提案）」でも生活軸として提案された経緯があります。このため、現庁舎周辺地域のまちづくりとあわせ、ご指摘の道路を含む周辺一帯の交通網のあり方を検討し、歩行者の安全・安心の確保に努めていくことが望ましいと考えています。 　アドバルーン広告等に限らず、広く広報に努めていきたいと考えています。 　平成 22 年度から、第一庁舎等の解体など、具体的な取り組みを開始します。特に、積立等は考えていません。

参考資料５　シンポジウム

■日時・場所

平成 22 年１月 14 日（木）午後７時から９時まで　立川市役所 議会棟１階 議事堂内会議室

－７時から７時 35 分まで－　第１部 現庁舎周辺地域グランドデザイン中間まとめの報告

－７時 50 分から９時まで－　第２部 パネルディスカッション

■パネルディスカッション

○コーディネーター　高見澤 邦郎（明治大学理工学部建築学科客員教授）

○パネリスト　佐々木 葉（早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授）

関 幸子（ＮＰＯ法人地域産業おこしに燃える人の会理事長）

川嶋 幸夫（立川市総合政策部長）

小町 邦彦（立川市産業文化部長）

○傍聴者　53 名

■パネルディスカッションの内容（敬称略）

――― ラウンド１（パネラーからの意見） ―――

高見沢　グラウンドデザインの意味とまちづくり推進の留意点として、グランドデザインとは、現庁舎周辺地域のまちづくりについて、100 人委員会（平成 15 年度）以来の市民参加の議論の中で概ね方向が出てきたものを、行政施策としてまとめて、さらにパブリックコメントを経て、皆さんにお示ししていくものであり、まちづくりの指針となるものである。

ただ、将来の絵に基づき、あとはこれを実現するだけだという単純なものではない。国の機関が少しずつ移転し、病院が順次建て替えられていくこと等を考えると、これからのまちづくりを進めていく上では時間の管理、プログラムの管理が大事になる。

一つの節目として（第二幕として）20 年程先の絵も描いているが、とりわけ今から５～10 年程の明日から始まる第一幕が重要であり、その間に市民の皆さんが力を発揮してくださり、当面３～５年で弾みがつけば、将来の良き姿が実現できるであろう。この期間がうまくいかないと、ただ箱モノを整備しただけと言われることになる。

佐々木　建物や街の更新のあり方として、この機会に参加させて頂き最初に感じたことは、当該地域の多くの建物が昭和 30 年代、40 年代に建てられたものであり、建物や設備の老朽化が進んだということで、順次建て替えられていくことをどう考えるべきなのかということである。

生身の人間よりも丈夫である鉄、コンクリート、ガラスが、なぜ人間の寿命よりも短い期間で変わっていくのか。耐震基準等の事情もあろうが、今度建てる建物は物理的に 100 年以上もつ建物を建てようという考え方も重要かもしれない。

ただ、多くの建物が建て替えられている事情は、物理的に弱くなったからではなく、時代の雰囲気に合わなくなったとか、持っている能力が時代に合わなくなったとか、そんな理由で建て替わっている。

必要に応じて更新していくことは必要ではあるが、記憶というものが継承されていくような形でリニューアルが行われるということを大事にしていきたいと考えている。街が記憶を継承する術がなく、めまぐるしく変わっていってしまうと、人間の拠り所を求めていくことが出来なくなるのではと不安をもっている。少しずつ変わっていくことは構わないが、その経緯がいろんな形で継承されるようなプログラム、グランドデザインをどうすればいいかと、様々な地区のまちづくりで考えている。

関　街を売り出す視点として、立川市は多摩地域の中心であり、多摩地域の核として自覚を持ってさらに発展してほしいし、その可能性がある。この時代に、7 ha もの広い敷地のグランドデザインを描ける都市はそれほど多くなく、市民が自分たちで考えられるという貴重な経験ができる数少ない面白い自治体の一つである。

グランドデザインを描くにあたっては、多くの市民意見を反映させることはもちろん大事であるが、立川市が多摩地域の中でどのような役割を果たすのか、将来のまちづくりの中で当該地域がどのような新しいものを生み出していけるのかというような、市民の視点を離れたより大きい視点をもって、当該地域のまちづくりに挑んでほしいと考えるし、そのような提案をさせて頂いた。

当該地域のグランドデザインの優位性は、公共公益ゾーンだけでなく、医療施設ゾーン、そして西国立駅前までつながる面的な広がりをもっていることである。業務核都市、商業都市、住宅都市である立川市のすべての要素を、この地域の中で構造的に多重化しながら、新しいものを生み出せると考えている。

その際、誰が全体を連携させて運営することができるかが大事になってくる。公共公益ゾーンがそこだけで運営するのではなく、医療施設ゾーン等といかに連携するかということである。医療は新しい産業として注目されている分野であり、全国から、アジアから人を引き付け、集客のタネにもなる。

ハードを更新する、コンバージョン（建物の用途を転用すること）する中で、経営的にどのような視点を持って売り出すのかが大事であり、当該地域の場合は売り出すものが３つあると考えている。

一つは、街に税金をつぎ込んでずっと税金で運営するのではなく、産業の種を植えて花開かせ、その空間からまちづくりの費用を生み出し、それで運営していくというエリアマネジメントという視点を持って運営してほしい。民間が主体となって成功している事例としては、六本木ヒルズやミッドタウンが挙げられ、当該地域も同様に産業を生み出す力をもっていると考えている。

もう一つは、この地域から人を育てることができると思っている。交流拠点、文化拠点、子育て拠点等の機能があるが、これらはそれぞれ別々の人が使うのではなく、一人の人が様々な場面で使っていくことになる。したがって、多機能を持たせることで人が育つ場になると考えている。

もう一つは、多摩地域の核として、交流を創り出すことができると考えている。

小町　マネジメントを支える主体とステージとして、マネジメントという概念には、管理･経営だけでなく、プロデュース（企画制作）とディレクト（演出）という要素も入っていると考えている。

このようなマネジメントを誰が支えるかというと、基本的には市民力･地域力であると考えている。

多摩地域の中心であるので、市民といっても閉鎖的なものではなく、立川で活躍したい人を市民と捉え、広い概念の市民が活躍することができれば、街の賑わいにつながっていくと思っている。

当該地域は、このような市民力を発揮できるステージである。

川嶋　第二庁舎の活用を考える視点として、地元の皆さんとは、庁舎移転までに将来の実現像を見せるという約束をしていた。そこで、第二庁舎をどのように使っていけばいいのかをまず考えてきた。

現庁舎は昭和 33 年からこの地で開設しており、今後とも市民自治の拠点として､コミュニティ活動の拠点として継承できないかと考え、市民会館は、これからも文化･芸術の拠点として機能させることを考えた。また、立川駅南口の賑わい創出をどうするかということも重要な視点であるとともに、立川病院については、周産期医療という機能も付加され、立川市の使命としても子育て支援をどのように考えるかということも大事な視点であった。これら４つの視点から第二庁舎の使い勝手を考えた。

第二庁舎の建物は暫定的な利用かもしれないが、導入する機能は普遍的なものと位置づけており、将来にも活かしていくという理念も、グランドデザインには反映させている。

有識者や市民の皆さんの意見を踏まえ、最終的な取りまとめを行い、将来に禍根を残さないまちづくりを進めていきたいと考えている。

――― ラウンド２（会場からの質問に答えて） ―――

○会場からの質問１：市の所有地以外の土地（立川共済病院、やすらぎ通り、西国立駅周辺等）は具体的にどのようになるのか？

市　中間まとめの内容を市から補足説明。

○会場からの質問２：当該地域にふさわしい心浮き立つ魅力とは何か？メッセージ性ある施設とは何か？どのような魂を注入すれば箱が魅力あるものになるのか？

佐々木　７ha の地域を区分して使うと(各主体がちまちまと三種の神器のようなものを揃えようとすると)、当該地域のメリットを引き出せない。極力、使いまわせるものは皆で使いまわすことが大切である。自分の行動が、向三軒両隣にどういうメリットをもたらすことができるのかということを、互いに真剣に考えてまちづくりを進めるというルールを明確にして、今後の関係機関（財務省、立川共済病院等）との話し合いを進めることが必須事項である。

建物が建った残りの空間を単なる残余空間とせずに、全体としていかに魅力的なものとするか。各施設の駐車場も、それぞれがいつも満車になるわけではないので、お隣通しで融通したり、車が止まっていない時には別の使い方をする等、融通のある対応がどれだけできるかが重要であり、それも当該地域の中だけでなく､周辺地域も取り込んで考えるべきである｡各主体の取組を事前に早く公表し､「隣がそうするなら、うちはこうしよう」というような様々な提案が連鎖的に出てくるようなマネジメントに是非取り組んでほしい。

当該地域全体が公園的なオープンスペースで、その中に施設が入っているというようなコンセプト

もいいと思う。公園というと、都市公園法等の様々な制約が生じるが、近年では一定エリアについて地元がこのような考え方でやっていくということを提案すると、自由なローカルルールに基づいたプランニングができるようになってきているので、立川市がモデルケースになるように取り組んでほしい。

○会場からの質問３：当該地域のまちづくりの考え方は理解するが、市民参画や民間のノウハウを活かして全体をマネジメントするということは、具体的にどのようなことか？

関　例えば、各施設が別々に駐車場をつくると、それぞれでシステムやカードが異なることになる。そうではなく、一枚のカードで文化ホールにも、病院にも行くことができるような、地域を経営していく思想を当該地域に入れていくべきである。

その際、自治体の役割は重要であり、こういう方針を持っているということを、違う所管にも相当積極的に言っていく必要があり、プロデューサーとしての責任がある。ただし、自治体はどういう仕組みで、どのようなシステムで運営するというようなノウハウは持っていないので、民間のノウハウを投下してもらう必要がある。そこで重要になるのは、いつ民間のノウハウを投入してもらうかということである。

今までのハードのつくり方は、施設が出来上がってから民間のノウハウを入れており（指定管理者に渡しており）、これではうまく運営できるはずはなく、後から不都合や不効率が分かり、ほとんど失敗している。つまり、ハードを設計する時に、運営するイメージを持った人に参加してもらい、運営する人が、運営のイメージを持って、ハードを整備することが大切である。日本ではほとんどこのことができていない。

そのためにも、早くに運営主体を確定し、そこからハードの設計に入るという、これまでのやり方を逆転させる必要があり、そのことに対する市民の合意が必要である。それができれば、面白い提案ができるはずである。うまく運営されて、事業者が儲かるようになると、民間の場合は一層投資していくことになり（自治体はずっと節約）、お金と人、楽しみがどんどん集まってくる。是非、そのようになる地域にしてほしい。

小町　第２庁舎の活用では、機能ごとに空間を切ったことが、魅力に欠けるとの指摘につながったと感じている。市民の皆さんからは、時代を見据えた良い機能の提案を頂いており、それも相性の良い機能なので、縦割りで運営するのではなく、相乗効果を求めた運営が必要であり、掛け算のマネジメントができればと考えている。

近年、立川市には医療･福祉の事業所が最も増加している。21 世紀はケアの時代でもあり、当該地域もケア産業の場所になっていくことも考える必要がある。

――― ラウンド３（今後に向けた意見） ―――

佐々木　参画してほしい民間事業者像として、この地域の空間、風景、まちの履歴を理解し、継続性あるイマジネーション（想像、想像力）を持った方、この地域にリスペクト（尊敬、敬意）をもった方に、だからここでこのようなことがやりたいというアイディアを提案して頂きたいし、そのような方がこの地域の運営に携わってくれることを強く希望する。

誰に任せるかはコンペティション（競争、競技）で選んでいくことになっていくだろうが、応募する方がこうしたいと語って頂き、皆で聞いて選んでいくというプロセスが歩みだせるといいと思う。

関　市民には役割がある。今までのように税金ですべてやってもらうのではなく、市民が自分達の手で、税金を使わないで、経営感覚をもって自立した活動（新しい人づくり、産業づくり、仕組みづくり）をしてほしいし、この地域を活動の拠点として使ってほしい。

自治体の財政は厳しい状況にあるので、自治体に要望だけを出すのではなく、自分達が何ができるのかを問い直されている時代であるといつも思っている。市民の皆さんには自立への道をつくることをお願いしたい。

このプロジェクトは行政の力量を問われているのではなく、立川市民の市民力が問われているのだと思う。

高見澤　まちづくりの最も大切な主体として、縦割りではなく、横串で刺して総合的に運営し、相乗効果をあげてほしい。そのためには、市はプロデューサーとして、全体を演出する大きな役割がある。民間には舞台装置や脚本づくり、経営をわきまえた、経験のあるところに参加してほしい。

一番大事なのはアクター（役者）としての市民であり、文化を開き、子育てをする市民が、本気でこの地域を使ってくれる市民が必要である。いいプロデューサーがいて、いい舞台装置があっても、演技をする人がいないと困る。

単なるお稽古事では、貸し会議室や貸し集会所と変わらなくなる。演劇や路上パフォーマンスをするような若い芸術家たちは、立川市内や周辺にもたくさんいるだろうから、アクターとしての市民がどんどん表に出てきてほしい。

行政、民間、市民が連携して、うまくこの地域を使ってほしい。

川嶋　今後のスケジュールとして、現庁舎･市民会館･公園等を一体的に管理運営できる事業者の公募をかけていきたい。仕様は検討中であり、できるだけ多くの提案があるといいと考えている。

選定については２段階で考えている。まず応募者の中から複数の企業等を選定し、それら企業等を対象に詳細な提案を求め、オープンなかたちでプレゼンテーション（計画･企画案･見積もりなどを、会議で説明すること）してもらい、その中から最終的な事業予定者を選定したい。

選定に際しては、行政だけでなく、有識者の皆さんや市民の皆さんにも加わって頂きたい。22 年度末までに具体的な内容を詰めて、23 年度のできるだけ早い時期に決定し、着工していきたいと考えている。

■パネルディスカッション会場での質問及び市の考え方

ラウンド２で、会場でいただいた質問（質問カード）にお答えしました。ここでは、会場でお答えできなかった内容を紹介します。

NO	質問等の内容	市の考え方
1	①西国立駅前ゾーンには、どのような機能の配置・導入を想定しているのか	周辺との環境調和に配慮しつつ住宅･近隣店舗等を整備し、地域住民や駅利用者が便利で夜間等も安心して利用できる駅前地区を想定しています。
	②やすらぎ通りの桜並木の保全を図る方針であれば、病院の建替に伴い、コミュニティ道路など歩行者中心の導線にしてみてはどうか	本地区中央部での医療施設ゾーン形成や子育て支援への取組を踏まえ、本地区全体にわたって高齢者等や子どもにもやさしい、誰もが安全･安心に利用しやすい道路環境整備を重点的に進めることとしています。
2	①グランドデザインを絵に描いた餅にしないための最も重要で具体的な手段･方法は何ですか	とりわけ５～10 年間のこれから始まるステージ１が重要であり、市民参加や民間のノウハウを活用していきます。
	②立川市民はどのような「文化・芸術」を何処に向かって誇りにしたいと思っているのでしょうか。お考えをお聞かせください	本地域では、現庁舎に隣接して市民会館が位置するとともに、市民の文化・芸術活動や若手芸術家の支援が課題となっていることから、本地域では、市民会館と連携した文化・芸術の取り組みを展開していきたいと考えています。
	③西国立駅前ゾーンのイメージを教えてください	周辺との環境調和に配慮しつつ住宅･近隣店舗等を整備し、地域住民や駅利用者が便利で夜間等も安心して利用できる駅前地区を想定しています。
	④「にぎわい」や「イベント」は、そうそう頻繁に、あるいは 24 時間継続してできるものではなく、地域住民にとっては、生活の安らぎを妨げる場合もあるかもしれません。何故、失したものを必死で取り戻すがごとく焦っているのか、そのようにも感じます	市役所移転による人の流れの変化が懸念されてきたことから、まちづくりの効果として、「立川駅南口地域の活性化」を期待しています。一方、まちづくりの理念である「充実感と元気をもらえる生活・文化拠点をつくる」なかには、周辺地域との調和の観点から「住んでみたくなる都市居住ゾーンの形成」といったまちづくりの効果も期待しています。
3	①まず第一に、立川市をどのような位置づけをしているのでしょうか	広域的な期待に対し、立川基地跡地の防災基地整備・国機関の移転等に伴う都市の発展性や

	②感謝と希望と躍動にあふれている立川を将来どのようになるのでしょうか ③そのための具体的にはどのような事業とその発展についてはどのように考えているのでしょうか	交通利便性を活かし、多摩地域の新たな産業経済の発展、並びに都市文化の創造を担う拠点的な都市づくりを目指すこと、また、立地特性から、自立性の高い「職と住のバランスある都市づくり」を進めていくために、活力ある多くの就業の場と、多様な住まい方に応えられる居住空間が充実した市街地の形成を目指すこと、さらに、市民ニーズに対し、都市の発展を、産業経済的な側面に片寄らず、市民の文化・交流、安全安心な環境、子育てや医療等の身近な暮らしの視点に立って取り組み、市民が住み続けたいと思える豊かな都市環境の形成を目指すことなどを都市づくりの視点においています。
4	①現庁舎部分については、第２ステージまでの展開は理解できたが、医療施設ゾーンと西国立駅前ゾーンがあまりにも漠然としていて分からない。又、西国立駅前踏切からすずらん通りにつながる道路はすずらん通りの幅員及び歩道を確保した上で景観を考えて欲しい	医療施設ゾーンと西国立駅前ゾーンの形成には長い時間を要することから、ゾーンの方向性を示したものです。 本地区中央部での医療施設ゾーン形成や子育て支援への取組を踏まえ、本地区全体にわたって高齢者等や子どもにもやさしい、誰もが安全・安心に利用しやすい道路環境整備を重点的に進めることとしています。
5	①西国立駅前の住宅等用地は、公共公益ゾーンへ流れる人の流れを止める可能性があるのでは	ゾーンごとの機能に対し、目的をもった人の流れを想定しています。
	②マネジメントの基本方針で、市民に情報発信する場合、常に発信し続けないと伝わりにくいのではないか	大きな節目に行うイベント等に加え、日常的にも、情報発信に努めていきたいと考えています。
6	①病院などの土地は国の所有ですか。市役所地は市の所有ですか。なぜ、立川市独自に開発していいことになったのでしょうか	病院の土地は、国家公務員共済組合連合会（立川共済病院）と財務省の所有です。また、市役所は立川市の所有です。市役所移転に加え、国の機関の移転など周辺環境が変化してきたことから、地域で一体的なまちづくりを目指すものです。
7	①土地利用ゾーニングの中で第三小学校の敷地を入れてはどうか。私は、三小の卒業生だが、当時、七小はなかった。錦町の生徒数が多いため、七小に分割したと記憶しています。現在は、三小、七小合わせても、当時の生徒数より少く、校庭の広い七小の方に、三小を統合し現在の三小の敷地を合わせてゾーニングの中に入れる計画は全く考えていないのか	土地利用ゾーニングの検討にあたり、第三小学校の廃校は前提にしていません。

旧庁舎周辺地域グランドデザイン

平成２２年５月発行

編集・発行　立川市総合政策部まちづくり調整課
〒190-8666　東京都立川市泉町１１５６番地の９
電　話　０４２（５２３）２１１１（代表）
ＦＡＸ　０４２（５２１）２６５３

この印刷物は古紙を利用しています。